

授業科目 人体のしくみと働き I	区分・教育内容		
	専門基礎分野 人体の構造と機能		
授業担当者 大学からの非常勤講師	開講時期	単位	時間数
	前期～中期	2 単位	60 時間
授業の目的 人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。			
授業の目標 解剖学総論では、身体の各部位の名称や運動の方向の表現の仕方を説明できる。 解剖学各論では、各器官系において、種々の細胞から器官までの構成について説明できる。また、細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について基本的事項を説明できる。			
授業概要 各器官について、系ごとに板書とスライドを用いて講義する。構成する細胞、組織、器官全体の構成、身体における位置、他の器官との関係を中心としてそれらの理解を求める。さらにそれらの機能および疾患の際の変化についても可能な限り触れる。なお、質問は理解への第1歩であるので、わからないまま通り過ぎずに積極的に質問することを歓迎する。			
授業計画(進め方) 1－2回 身体の各部位の名称、運動の方向の解剖学的表現を学ぶ。細胞から器官系に至る流れを概説する。骨格系(1);骨組織、骨の連結、各部位に存在する骨名を学ぶ。 3－4回 骨格系(2);骨の特徴と立体的位置を学ぶ。 5－6回 筋肉系;基本構造と各部位での筋肉の名称・位置・機能(四肢の動きなど)を学ぶ。 7－10回 神経系;中枢神経、末梢神経(自律神経系と脳神経系)に分けて講義する。基本的な伝導路を学ぶ。 11－12回 循環器系;脈管の分類や全身の血管系の構造を学ぶ。特に心臓の構造、動脈、静脈の違い、リンパ管の役割、拍動の検知部位などを学習する。 13－14回 消化器系;口から肛門までの構造の特徴や機能を学ぶ。体表からの位置も重要。 15－16回 呼吸器系;呼吸とは何か。気道の構成と肺、胸郭内の構造の特徴と区分について学ぶ。縦隔の特徴と役割を学ぶ。 17－18回 泌尿器系;腎臓から尿道までの構造と機能を学ぶ。また骨盤底の構造を学ぶ。 19－20回 生殖器系;男女の構造の違い。特に女性の各種ホルモンの関係について講義する 21－22回 解剖学実習見学;秋田大学医学部の解剖学実習を見学する。身体の構造を具体的かつ立体的に把握することを目的とする。ご遺体に対して敬意を表すことを学ぶ。 23－24回 内分泌系;全身の内分泌器官の構造とホルモンの分泌機序とその作用を学ぶ。 25－26回 感覚器系;皮膚、視覚器、聴覚器の構造と機能を学ぶ。 27－28回 総復習 なお6月中旬に中間試験、9月下旬に期末試験を実施する。また小テストを行うことがある。			
テキスト 新体系看護学全書 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学 メヂカルフレンド社			
参考書・指定図書 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
評価の方法 中間試験 100 点、期末試験 100 点、出席状況、小テストを評価対象とする。			